

HAMAYOU

芦屋町ボランティア活動センター通信 138号

発行日 2021年9月1日

発行者
芦屋町ボランティア
活動センター「リード」
発行所
遠賀郡芦屋町中ノ浜11-6
町民会館2階
TEL 093-221-1011

ボランティア活動センター

ワールドカフェ報告

令和3年度第1回ワールドカフェを、7月24日、町民会館大ホールで開催しました。ボランティア活動センター登録団体やリードぼらんていあキッズが参加しました。

テーマは「災害ボランティアセンター」でした。災害ボランティアセンターとは、大雨や地震などの



災害が発生した時に、被災者の生活復旧・復興に向けた福祉救援活動を行うための組織で、ボランティア活動の支援も行っていきます。

九州北部豪雨などで災害ボランティアセンターの運営に携わった、芦屋町社会福祉協議会の職員をゲスト

に招いてお話を聞きました。

最初に、災害ボランティアセンターの組織や運営について、図やイラストを使って説明がありました。

その後、支援活動を行うボランティアの受け入れや、作業の様子などの説明がありました。

続いて司会者が、ボランティアアとして参加する立場での質問をしました。



Q 災害支援のボランティアはいつから参加するのですか。

A 二次災害の可能性などの状況を判断して、安全が確認されてからです。

Q 被災地でボランティアが行った主な作業は何ですか。

A 使えなくなつた家財や土砂の搬出、家の中の清掃などです。

Q 参加する時に心がけることは何ですか。

A 被災者の気持ちを大切にすること、被災者の財産を守ることです。泥などで汚れていても大切な物です。

さらに、参加者からも質問がありました。

Q 芦屋町で災害が起きた場合に高齢者でもできるボランティアはありますか。

A 炊き出しや支援品配給などの作業の他、ボランティアを現地まで案内するなど、ボランティアと被災者のつなぎ役を担うことができます。

今回のテーマの大きな目的は、どのようなボランティアができるかを考えてもらうことでした。

災害ボランティアセンターについて研修したことを機に、自分に合ったボランティアを見つけてほしいと思います。

りーどぼらんていあキッズ第2回研修会は、小学1年生から6年生までの11人で、第1回ワールドカフェに参加しました。

ワールドカフェのテーマは、「災害ボランティアセンター」と、少し難しいものでしたが、みんな最後までしっかりと説明を聞いていました。

終了後に聞いた主な感想です。

○自分のできることを全力でがんばろうと思いました。

○災害で困っている人がいたら、積極的に助けようと思いました。

○今日の研修で初めて知ったことがあるので、知ったことを使って活動していきたいです。

○災害のとき、助けを求めている人の家の掃除など、僕たちができることを全力でやっていきたいです。



○自分にできることがあることを初めて知りました。学んだことを活かして活動していきたいです。

○災害で困っている人がいたら、小学生の自分ができる範囲で役に立つと思えました。

○自分の役割や災害ボランティアセンターについて知ることができたので、これからの活動に役立てていきたいと思えました。

○みんな協力して一人でも多くの人を助けたいと思います。

○今回の研修は、これからのりーどぼらんていあキッズの活動にとっても役に立つと思います。

未来の活躍を期待します。

未来の活躍を期待します。



★各種教室（見学できます。詳細はお問い合わせ下さい）

■デジタル写真教室

・ADPC(火曜日 13:00)

■福祉支援教室

・芦屋町手話の会
(月4回 水曜日 19:00)

・ハーティネットあいあい視覚障がい者支援
(月2回 木曜日 13:00)

■英会話教室

・AEGC(木曜日 10:00)

■手作り教

・さくら会〈洋裁教室〉
(水曜日 13:00)

・でんでんむし〈布絵本教室〉
(木曜日 10:00)

☆編集後記☆

今年度のキッズは、行動力があって、一人一人の意見がしっかりしていて、驚かされます。もっと多くの活動ができるといいのと思います。

早くコロナ禍が収束しますように。今年の猛暑はまだ続きます。台風も多いようです。気を付けてください。廣田